

勉強する意味

香芝市立香芝東中学校 1年 伊井 乙華

私たちは、なぜ勉強するのでしょうか。

みなさんは、勉強が好きですか。

私は、嫌いてはないけれど、好きではありません。テストが特に嫌いです。結果がそのまま数字で出てくると、落ち込んだり、ホッとしたりします。正直疲れます。

私の父は、小さいころからコマなし自転車の練習、鉄棒での逆上がり、マラソン大会に向けてなど、様々なことにアドバイスをくれたり、できるまで何度も何度も練習につきあってくれました。そんな父だったので、小学校低学年から、勉強も一緒にしてくれました。テストで良い点を取ると、ほめてくれました。反対に、分かる問題をミスすると、怒られもしました。「なんでこんなにいろんなことしやなあかんの。みんな、こんなにいろんなことしてないと思う。」

私は、母に不満をぶつけたことがあります。

その時母は、

「そうやな。お母さんが子供のときよりも、ずいぶんとかんばってると思う。乙華はえらいと思う。」とは言いましたが、

「もう、やらなくていいんじゃない。」

とは言わなかったです。

「何でも最後までやり切れ。途中で投げ出すな。」

これが父の口ぐせで、勉強はもちろん、習い事の課題にまで目を光らせ、最後の最後まで見守り続けてくれました。

それは、やりとげる嬉しさを感じることもできましたが、私にとってはつらく、しんどいものでもありました。プレッシャーにもなりました。

私は、
どうしてこんなに勉強やたくさん習い事をしないといけないのか。
とずっと思っていました。

ある日、父は言いました。

「乙華は将来なにになりたい。まだ決まってないのか。お父さんはな、乙華が大きくなって、なりたいたいものがいくつかできたときに、その中でどれでも選べたらいいと思ってる。選択肢は多い方がいいやろ。そのために今ががんばってん

ねんで。」

この言葉を聞いたとき正直意味がわかりませんでした。それでも、父に言われるがまま、がんばってきました。

そう話してくれた父は、一年半ぐらい前から体調をくずし、入院しました。父が入院している間は、毎日父と言葉を交わすことはできませんでした。父の目がなくてホッとする反面、「いやいや、こんな事ではいけない、がんばらないと。」と思い、いろいろな事に取り組んできました。

体調をくずしていた父は、今年7月に亡くなりました。今はもう、この世にはいません。父がいなくなり、これから私たち家族はどうなるのか正直不安でした。学校でもみんなこのことを知っているのだから、友達からどう見られるのか。かわいそうな子とは見られなくなかったです。そんな気持ちで学校に行くと、みんなふつうにあいさつしてくれました。仲の良い友達は私に抱きついてきて、話かけてくれました。その友達は私の父の話をよく聞いてくれて、私も心が少し軽くなりました。私はその友達が大好きです。

父といた時間は、たしかにこれからのみんなの時間よりは短いと思います。でもその分父は私に小さいころからたくさん関わってくれました。たしかに父がいなくなってさみしい気持ちはあります。もっと一緒にいたかったです。

将来私はまだなにになるか分かりません。自分の未来を選択するという事。

何になるのか。

何ができるのか。

何かを成しとげるのか。

ただ一つ、はっきり分かっていること。それは父が教えてくれたように、自分の人生を自分で選択し行動する力を持っていたいと思います。そのために、いろいろなことにこれからも一生懸命がんばりたいと思います。私はこんな父、そして母の子供で良かったです。